

りは始める。一段目は滝の中央をシャワーで直登したが、水のあまりの冷たさに上段は左岸へと逃げる。ホールドは多く、割合と楽に登れる。

つづいてF2八段を登るとF3八段になる。右岸を高捲きしてヤブに入り、滝の落口より沢に出る。もう水量はかなり少なくなってくる。

一二・四〇沢の右側を走る登山道に上がり今日の廻行はこれまでとする。ミズナなどをとりながら金山橋まで下る。

(記・一)

〔タイム〕

出合九・一〇―橋九・五〇―布滝二一・四五―沢終了
一二・四〇―金山橋一三・三〇

金山沢右俣

一九八〇年七月二十日

◆天気(晴時々曇)

林道終点で吾妻川に入るパーティと別れて入谷。一五分程で二俣。右俣には二俣の滝があり、滝の右に大きな岩がある。一五分程で顕著な支流が左から入る。五俣の

滝をかけている。

更に一〇分程でF2八段。右岸を捲く。上部がガレているので慎重に通過。すぐに小滝、そしてその上のF3五段は左岸を捲く。すぐF4六段で、右岸ぞいの少しオーバーハングになっている所を登る。左岸は草付ですべる。

F5を過ぎると滝が次々と出てくる。みんな直登できるものばかりである。F7一二段。ここには倒木がかかっていたので、これを使って登ろうとした半沢君はすべって木にカエルのようにしがみついた。結局倒木の下をくぐり、細いみぞに足を入れてひねってすべらないようにして登る。この上も小滝連続。そして二俣となる。水量は同じ位。右にはワサビがびっしりはえている。左に入る。

F8を越え少し進むとF9、13まで滝が連続する。F15三〇段。この沢最大の滝。滝の途中より二つに分かれている。最初中央を登ってみるが、ぬれていてすべるので右岸に転針。しかし今一步の所でしりぞく。水は冷たい。結局右岸を捲く。

ちよっと歩くと二俣。両方とも一〇段の滝となってい

る。上の湿原に早く出るには左に入った方がよさそうだ。右に入る。しばらく歩いた後左にヤブをこごと又沢に出て、これをつめると馬場谷地であった。

(記・生 傍)

(タイム)

金山沢橋九：〇〇—二俣九：一五—馬場谷地一二：二〇

金山沢左俣

(下降)

一九八〇年七月二十日

◆天気(晴時々曇)

馬場谷地湿原で昼食をとり登山道を一〇分程歩いてから下降を開始する。

一〇分程下ると沢に水が出て来た。すぐにF12三〇付近(水量が少ない)。沢の兩岸は岩場、この沢全体は長いトイ状になっているようで兩岸が岩質で川床が滑といった感じである。

三ヶ所の滝が連続して現われる。足をすべらせないよう慎重に下りる。次のF9三ヶ所ではちよつと下りるのがむずかしいのでザイルを出してアップザイレンにして下



金山沢左俣の下降

りる。下は滑が五〇ヶ位続いていた。すぐに滝が連続しているがみなトイ状もしくは滑滝である。また倒木で半分沢も滝もうまっている所があり階段を下りるような感じだ。

しばらく小滝がまばらに現われる。そしてこの沢最大の四十ヶ所の滝。しかし直瀑は中間の五ヶ所以上はゆるい滑です。又、この滝は倒木が無い唯一の滝でもあった。他の滝は多かれ少なかれ倒木や土砂、枯葉等に埋る事が多い。

この下には小滝や滑滝だけで二俣まで何なく下りられた。水量は左の方がいく分多いようです。これより五分位

金山沢 (作図)

